

平成25年度下半期 関市市民活動センター運営委員会 会議録

日 時：平成26年3月25日（火）午後7時～

場 所：関市役所 6-4会議室

参加者：別紙名簿のとおり

欠席者 なし

事務局 桜田、中村（市民協働課）、北村、竹川（関市市民活動センター）

1. あいさつ

市民協働課 桜田課長

2. 平成25年度下半期活動報告（別紙1）

市民活動センター事務局長 北村より

3. 平成26年度事業計画について（別紙2）

市民活動センター事務局長 北村より

4. 当センター運営について（意見交換）

○当センター運営について

- ・市民活動センターが開設され4年目。市民活動への市民の認識はどれくらい上がったのかを聞きたい。相談内容の変化等、分かるエピソードがあるか。  
→あくまで感触だが、当初は「何かしたい」という相談が多かったが、近年は活動の中で生じてくる問題についての相談が増え、専門的な内容になってきたと感じる。
- ・「どんな相談があり、どのように解決したのか」をまとめ、ノウハウ集を作るとよい。  
→近隣のNPOセンター（郡上、美濃加茂、可児）と相談事例を共有したいという意見で一致を得られている。
- ・取材対応とあるが、先方からどのようなことを聞かれるのか？  
→取材団体によって取材の際の視点は異なるが、「市民活動支援」「まちづくり団体による運営」等、参考例の一つとして取材するようだ。
- ・利用者数は当初は順調に増えていたが、2、3年横ばいになっている。行政の期待はどれほどか。また、市民活動助成金を返金する団体もあると聞く。  
→利用者数の想定は難しい。（課）
- ・関市内NPOできることリストの改訂を期待している。正確に、ジャンル別にもっと詳しいものが良い。既刊のものは文字ばかりで読みにくい。
- ・運営委員会では、会計報告も欲しい。  
→下半期の会計報告ができるよう、運営委員会を4月に開催したい。

- ・おどろ木の新設場所はどこか  
→未定。文化会館を想定している。

#### ○市民活動助成金について

- ・初動支援5万円枠が増設されたことによる効果は？  
→前年迄の申請団体の多くが、今年度は初動支援枠へ移行した。このことから、初動支援枠は市民活動団体の要望に適っていると考えている。
- ・前年迄の20万円枠を10万円枠に下げたことによる効果は？  
→当年度の件数は今までで最高の19件だった。
- ・市民活動センターの立場で、市民活動助成の事業を見て知らせてもらいたい。  
→活動先へ見に行き、レポートを作成したい。

#### ○市民活動について

- ・社協も、地域を超えて問題解決を図っていききたい。
- ・社協の事業計画の中には、市民活動等はどのように盛り込まれるか。  
→27年度から始まる予定の生活困窮者支援は、地域だけでは十分でなく、むしろ地域では取り組めないこともある。そこで市民活動が必要になってくると考える。
- ・究極の目的はどこにあるのか。地域で取り組んでおられる活動を紹介することで、ほかの地域も感化される。地域がカバーできないことが市民活動でカバーできる。
- ・ほかの団体・事業所とも連携をとっていききたいが、きっかけがない。交流を図ったり、勉強していききたい。関市民として自分の好きなことを生かせる仲間を作る。そのような場が仲間づくりの場として有効では。

#### ○地域委員会について

- ・市民活動センターの役割は「市民活動が活性化して地域がよくなること」。地域委員会等がたくさんでき、地域の中で解決できるのが一番よい。地域の団体のサポートへの糸口が掴みきれていない。地域の団体と密にサポートしていく糸口を見つけない。
- ・地域型のコミュニティとテーマ型のコミュニティが一緒にやっていくのは、無理だといわれたこともある。しかし、テーマ型の方が門戸が開いている。テーマ型からやがて地域型とつながっていくようなかたちが理想だ。
- ・市民なのか住民なのか。市民＝権利主体、住民＝生活主体である。「市民」が正しく認識され、それをどれだけ広げていけるか。市民活動センターに期待したい。逆に市民からどんどん叩かれて成長していけるようなセンターになればいいと考える。
- ・地域委員会ができれば、テーマ型と地域型が両立できるのではないかと。  
→そう考える。事例として、武儀はNPOが、上之保・田原も自身でできている。
- ・社協の活動も地域委員会の中で今後一緒にやっていけるのでは。

- ・地域委員会の活動は行政と協働していかねばならないが、社協は行政との結び付きが強い。市民活動センターが地域に入っていくのなら、社協はむしろ入らないほうがよい。
- ・地域委員会の仕切り役や事務局機能は誰が担っているのか。未加入の団体を取り込むには
  - 小学校区を単位とし、ふれあいセンターが事務局的功能を務める。組織自体は、既にあるふれあいセンターの組織で、役員10人・支援職員で構成される。そこへ活動センターがノウハウとして入っていく。
- ・いま、地域委員会は地縁系団体が中心となっている。そこに市民センターが入ることで、テーマ型を押し込んでいけるのではないか。
- ・地縁系団体だと、各々が各々の団体を背負っているという一体感を感じにくい。地域委員会が本来こういうことができる組織なのに、現実はそのに遠く及ばないという状況になるのでは。

#### ○広報について

- ・地域委員会のことが市民のみなさんに知られていない。広報誌・HP掲載にも取り組んでいるが、発信手段としては有効ではない。新聞が有効ではないか。新聞に掲載してもらるかノウハウを市民活動センターから示してほしい。新聞社に情報を出すだけでは難しいので、新聞社が飛びついてくるようなノウハウをお願いしたい。
- ・地道な発信だけで馬力がつかない時には、イベントをやるのも手。
- ・お互いがやっていることを発信・交流する　そういう仕掛けを組み入れていく。
- ・ボラ協を立ち上げた。この一年が正念場。市民活動センターの役割の一つにある「市民活動に対する、関市民への裾野を広げる」がまさしく課題。そのためには何をしたいのか。どうやったら知ってもらえるか。市民活動センターに相談させてもらっている。

#### ○女性の参加について

- ・女性が入ることなく地域委員会が動いていってしまうのではないか。ただでさえ、女性の意見は通りにくい。少ない＝弱いとなる。硬直化した団体にならないよう、地域委員会に女性が入っていけるようなシステムができるようどうかよろしくをお願いします。
- ・発信力のある女性をどれだけ見つけてこられるか。引き受け手がいない。地域のためという意識を、これから進めていくしかない
  - 地域委員会メンバーを決めるときに市民活動センターが関わっていききたい。
- ・メンバーに女性がいても、代表の集まる会議だと女性が出てきにくい。
- ・市民活動団体は女性がやっている団体のほうが多い。市民活動団体が地域の中に入れば、女性が入っていける。時間的、物理的な面を考慮したい。
- ・今ある施設を利用して　展示会をやるとそれを見に来ると生徒数が増える
- ・ハーモニーは、生涯学習を通じてまちおこしをしている。家にこもる人を作らないとい

う予防保全的な面もある。来れる人を助ける。女性は文化的で、ハーモニーに来るが、男性はなかなか来ない。しかし女性は家に引きこもってしまう人が多い。社交的な人から家庭的な人まで、幅広い。費用はかかるが、まちかどギャラリーみたいところでやってみたらと提案していきたい。

- ・幼稚園に勤めている。子育て世帯のお母さんたちのエネルギーはすごい。子どものためにできるのは自分が動くことだと考え、すごく動く。子育て中のお母さんたちを巻き込むと良い。
- ・子育て世代はPTAがあつてまとまりがよい。市民活動センターの登録団体にはその層が薄いように思う。女性の潜在的な能力を活性化させ、PTAの熱を地域との連携や、他との絡みができると楽しい。  
→PTA会長さんもいかに地域委員会に関わるのかと考えている。PTAと地域委員会をつなげるはたらきをセンターができるようにしたい。
- ・パワフルなお母さんであっても、子育て、夫婦間等で様々な悩みを抱えていて、どんどんパワーを削がれ、やがて「夜は出られない」となってしまう。自分のやりたいことがあつて、夫の理解・協力があれば、と考える。委員会に入る力を持っているお母さんや若いお母さんたちに、ジェンダーの問題等、社会にあるすごい大きな問題に気付いてもらう場があると良い。お母さんが自己規制して萎縮してしまうのは、子どものためにもよくない。

#### ○協働について

- ・青年会議所としては多くの団体と連携をしていかねばならない。連携することで協働に成功した例はあるか。  
→地域の課題について巻き込みながら取り組んだ例がある。善光寺住職から相談を受けて癒しの会を立ち上げた。善光寺縁日などが開催されている。また、長良川鉄道沿線で応援する会が立ち上がり、沿線自治体等で構成されている。今春の鉄博は、20のプログラムを2カ月にわたって行った。現在、市民活動センターは上之保のふれまちにワークショップに参加させてもらってサポートしている。地域への取り組みを強化したい。
- ・事務局長としては、来場者が増えることを目指していきたい。地域へ出て行って仕事をしたい。
- ・傾聴ボランティア活動のなかで、デイサービスに行けるまでになった傾聴利用者への次の段階として、生涯学習を紹介できるようになるような仕組みはないか。  
→市民活動センターに相談に来てくれた人には対応できるが、来てもらう以外でなにかできないか。つなげる役割を考えたい。
- ・プラットフォームを作り、様々なボランティアを一本化する。必要なときに色々できるようなプラットフォーム。プラットフォーム的な会議を、毎回場所とある程度のテーマを決めて行う。異業種の人たちが交流し、「それは私たちができる・できない」という協力体制ができるとよい。

- ・富岡ふれあいセンターが中止になったのは、造られると色々なことをやらないといけなくなるという意見から。一方で望んでいる人がいたが、そういう意見は見えてこない。真似したいと思えるような、魅力的なところをアピールすることが大切。